

拝啓 今年も早や10月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は、気候不順のせいか、今頃きんもくせいが咲いているところがあります。近所の公園では、朝日を浴びて草紅葉がきれいです。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の3回目ですが、今回の「エンカウンター」の1ページ、「天国は言葉ではない、力である」という項目には、次のようにあり、感銘を受けました。

「人間の歴史を見て下さい。最も害をなした人は、何でも自由に、思いのままに出来た人でした。なすべきことが分かっているのに、それを行なう力がない。ここが問題です。そして、宗教はこの力を与えます。この力を与えることが宗教の本質です。宗教というものは、ちょっとやっておいた方がよいといったアクセサリーではありません。生きるか死ぬかの問題です。現代は、その力が欠乏している時代です。……「なすべきことをなす」という力を君たちはどこで学びますか。そういうことはどこの学校でも教えません。そうですから、所得倍増になっても、真の平和は来ません。パウロは、「福音は力である」と言いました。「天国は言葉ではない、力である」と言いました。」

南原先生の価値並行論という政治哲学の理論では、宗教は、真善美・正義という価値を背後から支える、力を与える、とありますが、南原先生の伝記を書いていたころ、戦後教育改革の時、南原先生の活躍は大変なもので、信仰によって支えられていたから初めてできたということが分かりました。宗教が力であり、価値ある行為を支えるという意味が良く分かったような気がしました。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』10月14日

「有名な英語の先生であった神田乃武先生はこう言われた。「平凡なことを為さんと試みるなかれ。平凡なことを非凡に素晴らしくなさんとこころみよ」と。

私は、中学時代に、これを暗記した。しかし、どうしても忘れることは出来なかった。歳をとればとるほど、この文句が好きになる。

私たちは偉大なことにして、非平凡なことを為したいと思う。しかし、平凡なことを素晴らしくなさんと努力することなしには、偉大なことを為すことは出来ない。その訳は、平凡なことを素晴らしくなさんとすることのみによってのみ、偉大なことをなす力が与えられるからである。」

新渡戸稲造先生『一日一言』10月21日

「西暦1805年の今日、英将ネルソンが戦死する間に、「余は余の義務を尽くせり」と叫んだ。際限なきは勤めなり。一つ済むと思えばまた一つ。それを果たせばまた新たに起こる。かく、勤めは無限数なれども、ありがたき事には、いくつもある勤めが同時には来ぬ。故に一つずつ尽くしていけば、たくさん余りありとも、天も人も己も責めぬ。」

松下幸之助先生『道をひらく』「敬う心」

「学校の先生を軽んじ、師と仰ぐ気持ちが無かったら、先生も教える張り合いがないし、

生徒も学びが身につかない。社会にとっても大きな損失である。

やはり聖職の師として先生を敬い、謙虚に師事するする姿から、一言一句が身につけ成長する。

親を大事にし、上司に敬意を払う。先輩に礼を尽くし、師匠に懸命に仕える。親や師に対するだけではない。よき仕事をする人を心から尊敬し、一隅を照らす人にも頭を下げる。」

内村鑑三先生『一日一生』10月1日

「秋は来たれり。我は聖書に帰らん。地の書にあらずして、天の書なる聖書に帰らん。肉の書にあらずして、霊の書なる聖書に帰らん。教会の書に在らずして、人類の書なる聖書に帰らん。しかも自由の精神をもってこれに帰らん。学者の態度をもってこれに帰らん。しかして神と自由と永生についてさらに少く知るところあらん。」

パークレー先生「一歩 (1)」8月8日

「(チャーチルとニコルズ (詩人) の会話)

「君は毎朝9時に自分の部屋に入って、こういうべきなのだ。「俺はこれから4時間仕事をする」と」

書けなかったらどうするのですか、頭が痛いとか、そういった時にはどうするのですか、とニコルズが訪ねると、チャーチルは答えた。

「そういうものは乗り越えなければいけない。靈感が湧くのを待っていたら、老人になるまで座って待つ事になるだろう。書くことも他の仕事、例えば軍隊を出撃させるのと変わりはない。天気が良くなるのを座って待っていたら、遠くまで進むことは出来ない。われとわが身を蹴飛ばし、自分をむしゃくしゃさせ、だがとにかく書くのだ。それしか道はない」

カウマン先生『日の出に向かって』10月2日

「幸福な日々を送る秘訣は、私たちの外的状況の如何によるのではなく、私たちの心の中のものです。朝毎にたくさん御言葉を読んで、主の尊いお約束に心の窓を開けなさい。時に適った熱い祈りをし、あなたの出会う人に、一つまた二つの善行を為すときあなたの表情は明るくなります。そして、あなたの足は「女鹿の足」のようになります。もし、あなたが目に見えない痛みや苦しみをなくしたいと思うなら、それらをあなたの受けた恵みの下に葬ってしまいなさい。一日一日を神と共に始めなさい。…一つの勇敢なひらめきが、多くの困難を吹き払ってしまう。」

妻山口和枝は、10月24日、病院へ再入院しました。

新型コロナの拡大が収まりつつあるように見えますが、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、またワクチン注射は打てるときに打つという方針で行かれまして、十分ご注意下さるようお願い申し上げます。

10月24日

山口周三

エンカウンター読者の皆様各位